

コスタリカ現地レポート 1

佐原 良祐*

1-1 コスタリカ共和国の概要

南北アメリカをつなぐ中米に位置するコスタリカ共和国，通称コスタリカは 51,100 平方キロメートル，おおよそ日本の九州と四国を合わせた面積に，約 487 万人 (2013 年 世界銀行) が住む．首都は標高約 1,200 メートルの中央盆地に位置するサンホセで，民族はスペイン系及び先住民との混血 95%と大半を占め，他はアフリカ系 3%，先住民他 2%となっている．話されている言語はスペイン語で，国教はカトリック教で主流となっているが，信教の自由はある．また中米で最も安定した民主主義国で，高い教育水準 (識字率 96% (2010 年世銀)) を誇る．常備軍の不保持，比較的整った福祉制度が特徴である (以上，外務省 HP を参照)．

1-2 日常生活

コスタリカの食事は日本と同様にご飯 (インディカ米) を主食とする．またフリホーレスと呼ばれる黒または赤インゲン豆を煮たのと，プラタナ (調理用のバナナ) を油で揚げたり炒めたりした物をよくご飯とセットにして食べる．魚介類はスーパー等に売ってはいるが，値段が高く肉類の方が比較的安く手に入りやすい．筆者が派遣されている地域も海にとっても近いが，食卓にあまり魚料理は出てこない．「ガジョ・ピント」と呼ばれるフリホーレスとご飯をニンニク等と炒めたものがコスタリカ定番の朝ごはんだ (図 1-1)．



図 1-1 左側にあるのが「ガジョ・ピント」.

*独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊
E-mail: takakuraken.takakuraken@gmail.com



図 1-2 現地スーパーのカップラーメン。



図 1-3 コスプレをするコスタリカの女性。

また料理は辛いものが極端に少なく、全体的に油を多く使っていてマイルドな味わいが多い。また人によりけりだが甘いお菓子を間食でよく食べている。

コスタリカ (Costa Rica) は、コロンビア (Colombia)、チリ (Chile) の他のラテンアメリカ諸国と共に、それぞれのアルファベットの頭文字を取って美人産出国の世界の 3C と呼ばれているらしい。確かに、街を歩いていると至る所にグラマラスでエキゾチックな美女だらけである。しかしこの食生活が影響しているせいか、年を重ねると体型を維持できている人が少ないように見受けられる。

現地のスーパーでは、日本とは味がだいぶ違うがカップラーメンがよく売っている (図 1-2)。コスタリカの人はこちらを「Maruchan」と呼び、多くの人が食している。それ以外にも寿司が日本食で特に有名で、寿司をメニューの中心とした日本食レストランが首都サンホセ、及びその近郊に多く存在する。また若者を中心にアニメ、漫画、コスプレといった日本文化が人気を博しておりそれに関わるイベントも行われ、たくさんの人が集まっている。私も以前 1 度だけだが、KURI 2014 という日本文化のイベント (主にコスプレを披露するお祭りみたいなもの) に参加した。小学生にも満たない小さな子供から 50 代位までの幅広い年代が参加するアットホームな雰囲気ながら、各々アニメ等のキャラクターにそっくりで現地のコスプレのレベルの高さに驚いた (図 1-3)。

1-3 コスタリカの国立公園・自然保護区

コスタリカは国土の約 4 分の 1 が国立公園・自然保護区となっており、世界全体のわずか 0.03% の面積に地球上の全生物種の約 5% が生息している (外務省 HP を参照)。コスタリカは、豊富な自然を観光資源に、北米でのエコツーリズムマーケットを牽引してきた。20 世紀半ばまで農業国であったこの国は、1980 年代に観光業が勃興し、1990 年代に飛躍的な成長を遂げた (武田 2012)。このようにコスタリカは国内に国立公園・自然保護区を広く有

し、豊かな自然・動植物を目玉とするエコツーリズムが盛んである。いま私が派遣されているコスタリカの太平洋側に位置するマヌエル・アントニオ国立公園においてはサル類やナマケモノ等の日本では決して見られないであろう動物が、簡単に観察する事ができる(図 1-4)。またスペイン語でコスタリカは豊かな (Rica) 海岸 (Costa) と意味するように公園内には美しいビーチが広がり、国内で最も人気のある国立公園となっている(図 1-5)。

上述のようにコスタリカは生物多様性保全の分野で進んだ国として他国に知られているが、しかしそれは陸域のみに限られ、海域の保全や調査が進んでいないのが現状である。よって海洋保全とそのため学術調査が今後のコスタリカの課題となっている。いま私が派遣されている国立公園の海洋生物においても、過去における生態調査は Phillips and Pérez-Cruet (1984) と Willis and Cortés (2001) のみで海洋生物相の調査は少ない。率直に言えば、どこにどんな生物がいるかさえあまりはっきりしていない。この現状を踏まえて私は現地のコスタリカ大学動物学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、村瀬敦宣氏(宮崎大学助教)の協力を得て、マヌエル・アントニオ国立公園沿岸生物相の把握するための生態調査を行っている。次号の現地レポートから、より詳しく活動内容を説明する。

1-4 エピローグ

コスタリカには他のスペイン語圏にはない *Pura vida* というコスタリカ独特の言葉がある。英語で言うと *Pure life*, 日本語の直訳だと「純粋な人生」。コスタリカ人はこの直訳の意味は特に気にせず使う。すれ違いざまに挨拶する際に「*Pura vida!* (やあ!)」、元気? と聞かれたら「*Pura vida!* (元気!)」、ミスをしてごめんと謝れば「*Pura vida!* (気にすんな!)」と返答し、他にも様々な場面でまた様々な意味で頻繁に使う。

日本人に比べれば時間や約束事に関して、ルーズなコスタリカ人。道を尋ねればたとえ分からなくてもとりあえず適当に答えるコスタリカ人。見ず知らずの人達にも優しく、滅多に口ケンカすらしない温厚なコスタリカ人。今後この現地レポートで、私自身の活動と共に現地の人々のこの平和で楽観的な *Pura vida* の生活を紹介していきたい。

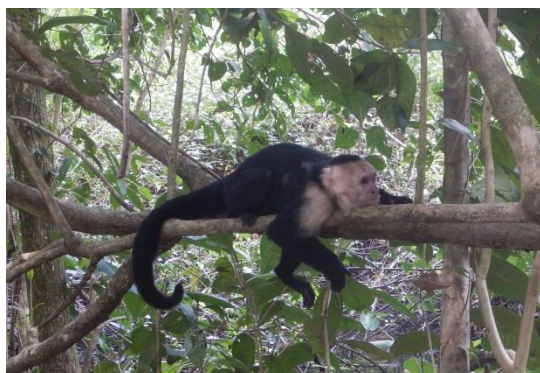


図 1-4 木陰で休むノジロオマキザル。



図 1-5 国立公園内のビーチ。

引用文献

- Phillips, P. C., & Pérez-Cruet, M. J. (1984). A comparative survey of reef fishes in Caribbean and Pacific Costa Rica. *Rev. Biol. Trop*, 32, 95-102.
- Willis, S., & Cortés, J. (2001). Mollusks of Manuel Antonio National Park, Pacific Costa Rica. *Rev. Biol. Trop*, 49(Suppl 2), 25-36.
- 武田淳. (2012). コスタリカにおける「エコツーリズム」イメージの創造と近年の変化. *日本国際観光学会論文集*, (19), 77-82.